



edited by dr. masato mugitani
vol.5-no.5

久しぶりにカンニバル・カード

麦谷真里

(まえがき)カンニバル・カードは、私自身の作品(「カメレオン屋敷の奇妙な体験」)もありますが、一時期の流行で、最近はほとんど演じられることがありません。少し前に、MURPHY'S MAGICから大量にDVDを買いました。その中に、風変わりなカンニバル・カードを演じる人がいて、それは Mike Hankins という人の作品で、私はこの人のことをまったく知りませんでした(写真770)。

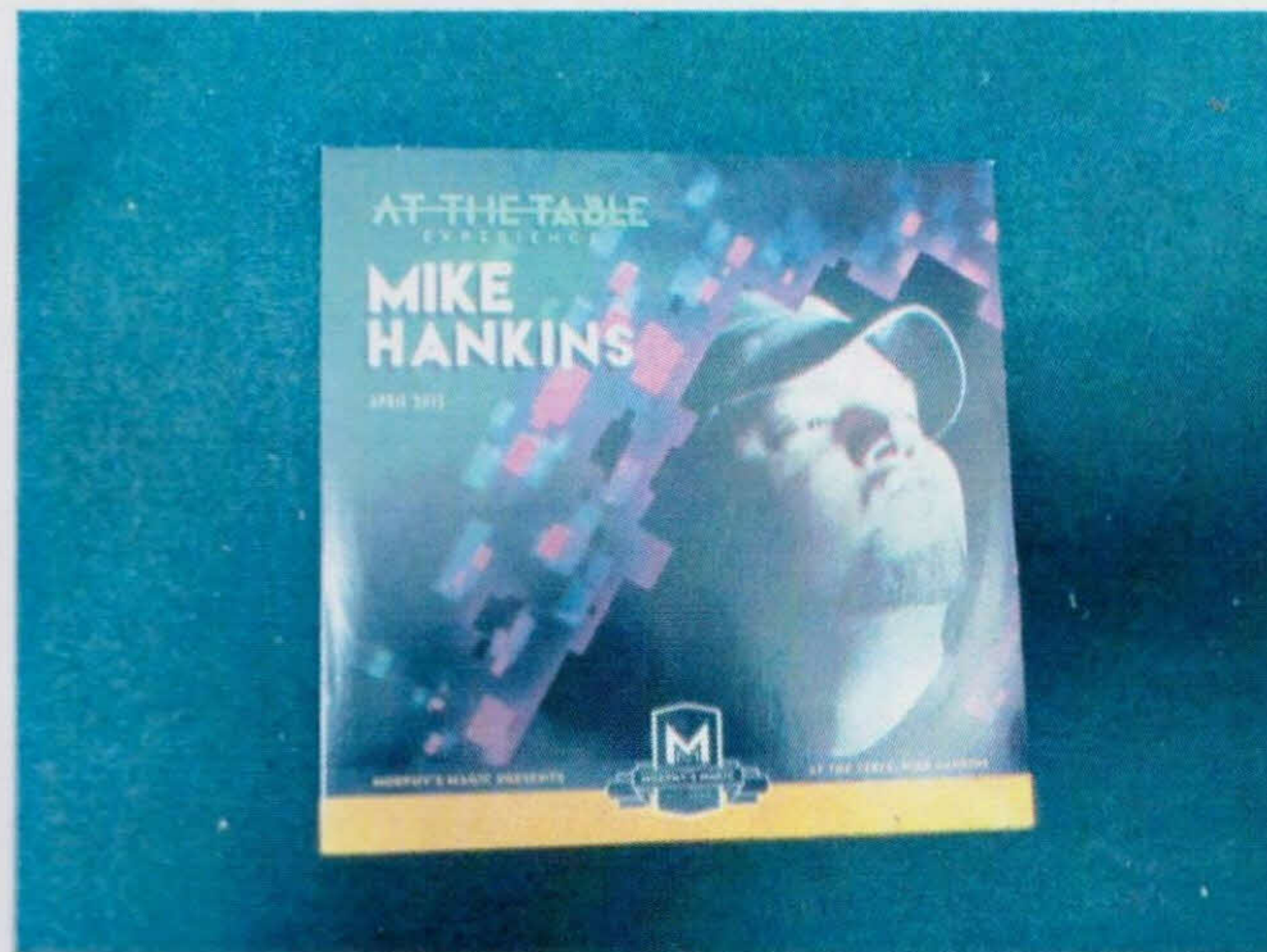


写真770

彼のカンニバル・カードの紹介には、最後に"kicker ending"('どんでん返し')というほどの意

味)があると書いてあるのですが、それは、使っていた4枚のカードが最後に裏の色が変わるというもので、明らかにまったく別のカードですから、“kicker”でもなんでもありません。むしろ、余計なことを付け加えた、という印象です。カンニバル・カードそのものは、リン・シールズによって考案され1950年代に市場に売り出されたものですが、その後、アレックス・エルムズレイを始めとする夥しい数の作品が発表されました。しかし、今回の Mike Hankins のダブル・バック・カードを使うアイデアはなかなか秀逸で、ユージン・バーガーが誉めたというのも頷けます。特に、最後に1枚ずつバラバラにしてテーブルに置いて行くところなどはマニアでもひっかかります。ハンドリングはやや雑で、マニアの悪い点が出ているだけでなく、DVD の解説も映像がきちんと追えてなくてわかりにくいところがあります。そこで彼の骨格のアイデアだけを尊重して、構成し直してみました。ちなみに、最後の色変わりはありません。

[現象]4枚のジャックが次々とカードを「食べて」行きます。食べ終わったあとのジャックは、完全に4枚しかありません。

[必要なもの]

ダブル・バック・カードを1枚用意して、片面の真ん中に1cm四方程度の透明な両面テープを貼っておきます(写真771)。



写真771

[準備]

用意したダブル・バック・カードを両面テープが貼付してある面を上にしてデッキのトップに置いておきます。

[やり方]

- ①トップ・カードだけが混ざらないようにデッキをシャッフルします。デッキを表向きにして4枚のジャックを出します。原案ではちょっと洒落た演出を使って4枚のジャックを表向きに出すのですが、それだと、予め4枚のジャックがセットしてあったことがわかります。この手品そのものは4

枚のジャックである必然性はないので、余計な演出は疑いを招きます。原案でジャックを使っている理由は、4枚のジャックに頭文字 J で始まる有名人を当てているからです。日本ではこの演出は使えませんので、実際は、キングでもクイーンでも絵札ならどれでもかまいません。ここでは、便宜上ジャックにしておきます。

- ②4枚のジャックをデッキのトップに裏向きで載せますが、まず、黒の2枚のジャックを上と下にして、間に赤の2枚のジャックが挟まるようにします。また、トップのダブル・バックに準備してある両面テープにくっついてしまわないよう、4枚のジャックの下に左小指で軽くブレイクをしておきます。解説の便宜上、ジャックを上から、J♣、J◇、J♡、J♠としておきます。
- ③右手を上からかけて、トップのクラブのジャックを取り上げて、観客に表を見せます(写真772)。写真772は、マジシャン側から見たものです。



写真772

- ④次に、右手で、この下にダイヤのジャックを取って同じように観客に表を見せますが、クラブのジャックとダイヤのジャックとの間には右親指でブレイクを作っておきます。さらに続いてハーのジャック、スペードのジャックと一枚ずつ右手の下に取っては観客に表を見せて行きます。
- ⑤4枚のジャックを見せたら、一旦、この4枚をデッキの上に軽く置いて、親指のブレイクから下の3枚のジャックをデッキの上に落としてしまい、クラブのジャック一枚だけをあたかも4枚のジャックのように右手で取り上げ、デッキを脇へ除けて、この1枚だけを左手に裏向きで置きます。
- ⑥左手に置いたカード(観客は4枚のジャックと思っている)を指差し、「この4枚のジャックは、どんなカードも食べてしまう性質があります」と言って、右手でデッキの一番上からカード(ダイヤのジャック)を1枚取って、あたかも左手の4枚のジャックの間に入れるような素振りで、左手のクラブのジャックの下に入れます(写真773)。
- ⑦ただちに、左手の2枚を表向きにひっくり返して、これを4枚に数えます。これは次のように行ないます。まず、2枚を右手で持って、左手にダイヤのジャックを取ります。続いて、この上にクラブのジャックを取りますが、このとき左手のダイヤのジャックを再び右手に引き戻します。このダイヤのジャックを左手のクラブのジャックの上にとるとき、同時に、左手のクラブのジャックを右手に引き戻します(写真774)。これで、4枚のジャックがあるように見えます。



写真773



写真774

- ⑧左手の2枚を裏向きにします。「もう1回やってみましょうか？」こう言って、デッキのトップから次のカード(ハートのジャック)を1枚取り上げて、左手の2枚のカードの間に挿入します。「今度もジャックが食べてしまいます」と言って、左手の3枚を表向きにして、これを4枚のジャックに数えます。これは次のように行ないます。まず、クラブのジャックを左手に取ります。次のハートのジャックを左手に取ったときに、左手のクラブのジャックを右手のダイヤのジャックの下に引いて取り戻します。右手に残ったダイヤのジャックとクラブのジャックを順に左手に取ります。エルムズレイ・カウントと同じです。4枚のジャックを見せたことになります。
- ⑨左手の3枚のジャックを裏向きにします。デッキからトップ・カード(スペードのジャック)を1枚取り上げます。このとき、スペードのジャックにその下のダブル・バックの両面テープにくっついてある可能性がありますから、デッキから持ち上げるとき、その下のカードがくっついて来ないように他の指で押さえて取り上げます。これを左手のカードの上から2枚目に挿入します。
- ⑩左手の4枚のカードを表向きにして左手に一枚ずつ取って、挿入したカードが「食べられた」ことを見せます。この4枚のジャックは公明正大な4枚ですので、左手に取ったあとも開いて見せることができます。

- ⑪左手に4枚のジャックを表向きでファンに開き、右手でデッキのトップ・カード(ダブル・バックです)を取り上げて、4枚のジャックの中央に裏向きで入れます(写真775)。



写真775

- ⑫4枚のジャックを一旦閉じます。左手で持って、ダブル・バックをしっかりとすぐ上のジャックにくっつけます。全体を裏向きにして左手に持ち、右手で上から一枚ずつ、テーブル上に横方向にフリップしながら表向きにして行きます。確かに挿入したはずの1枚が消えています(写真776)。「このように何枚でも食べられるのです」と言って終わります。

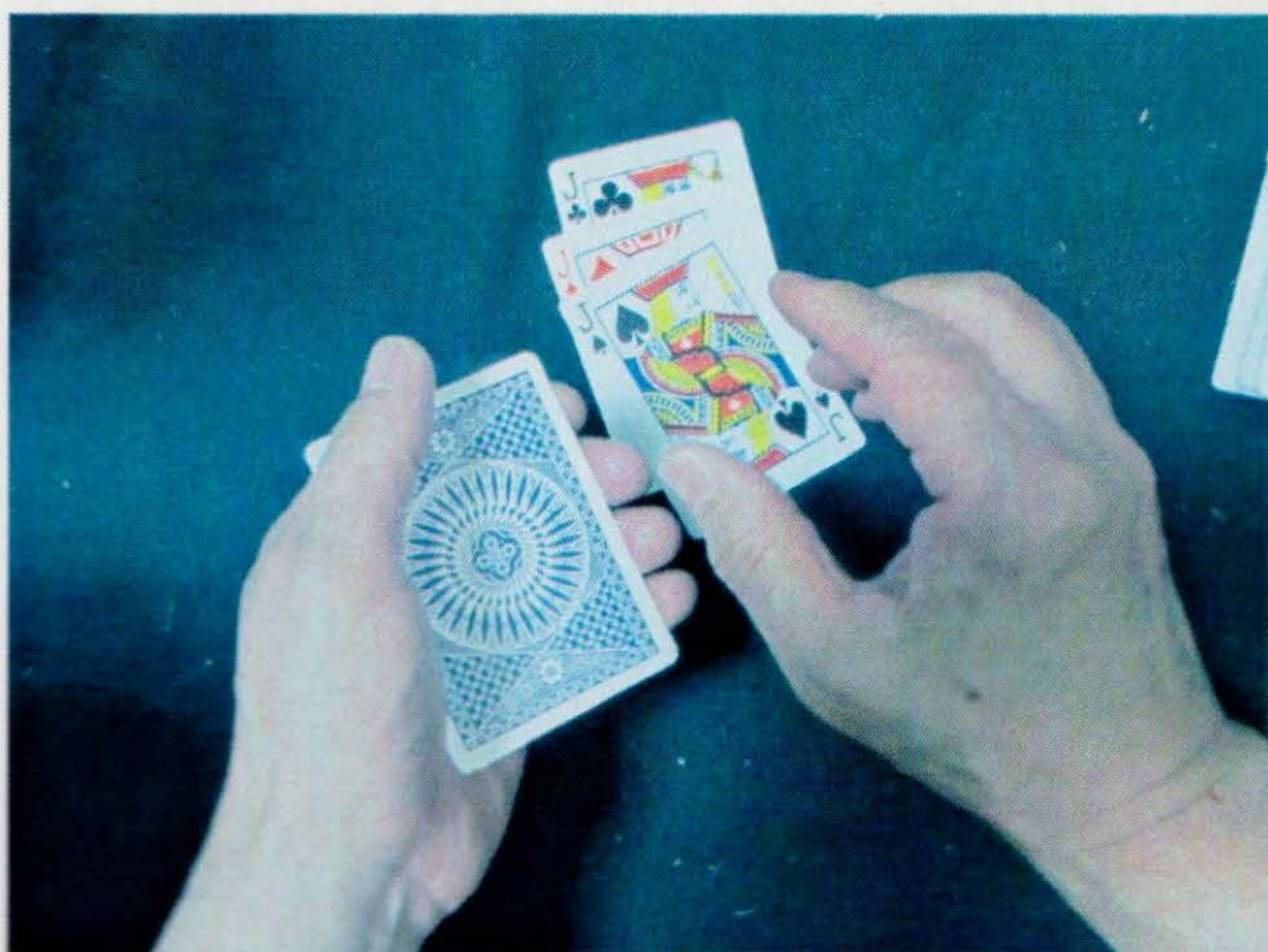


写真776

[コメント]

カンニバル・カードで有名な、2枚のカードを口のようにアーチ型に持ってカードをパクパク入れて行くやり方は、上の手順では最初が一枚なのでできません。無理にやれば一枚でもできないことはありませんが、原案ではまったくやっていないので私も採用しませんでした。演出としては面白いのでやってみてもいいと思います。ただし、現象は同じですので、手品そのものには影響はありません。調べたら、この人は、他にもDVDとか単売商品を出しているの、そこそこアメリカ合衆国では名が通っているようです。いろんな作品を解説するときに、かなり適確にクレジットしているので感心しました。

Heavens Aces を練習してみよう

麦谷真里

(まえがき)私がアメリカ合衆国に住んでいた1980年代当時は、マジシャンの技量を測るのに、よく、クリフ・グリーンのフェニックス・エーススができるか？と訊かれました。これは、クリフ・グリーンの「プロフェッショナル・カード・マジック」に収載されている有名なカード・マジックで、4枚のエースが1枚ずつ不死鳥のように蘇る現象なので、その名が付けられています。通常は、立って優雅に演じます。サロンやプラット・フォーム向きのカード・マジックです。スライハンドですから上手に演じるのが簡単ではないカード・マジックですが、当時、上手に演じる人はたくさんいました。しかし、古い手品なので、最近ではもう演じる人も少なくなりました。そこで、いろいろ渉猟してみたら、Chris Randall が、“Heavens Aces”というカード・マジックを演っていることがわかりました。フェニックス・エーススとはだいぶ趣が異なりますが、Chris Randall 自身は、フェニックス・エーススに触発されてこれを考えた、と言っています。これもサロンやプラット・フォーム向きの鮮やかな手品ですので、この際、練習してみることにしました。

[現象]

空の手に4枚のジョーカーが1枚ずつ出現し、最後には4枚ともエースになります。

[やり方]

- ①4枚のエースと1枚のジョーカーの5枚のカードを、ジョーカーをボトムに置いて右手にラテラル・パームします(写真777)。

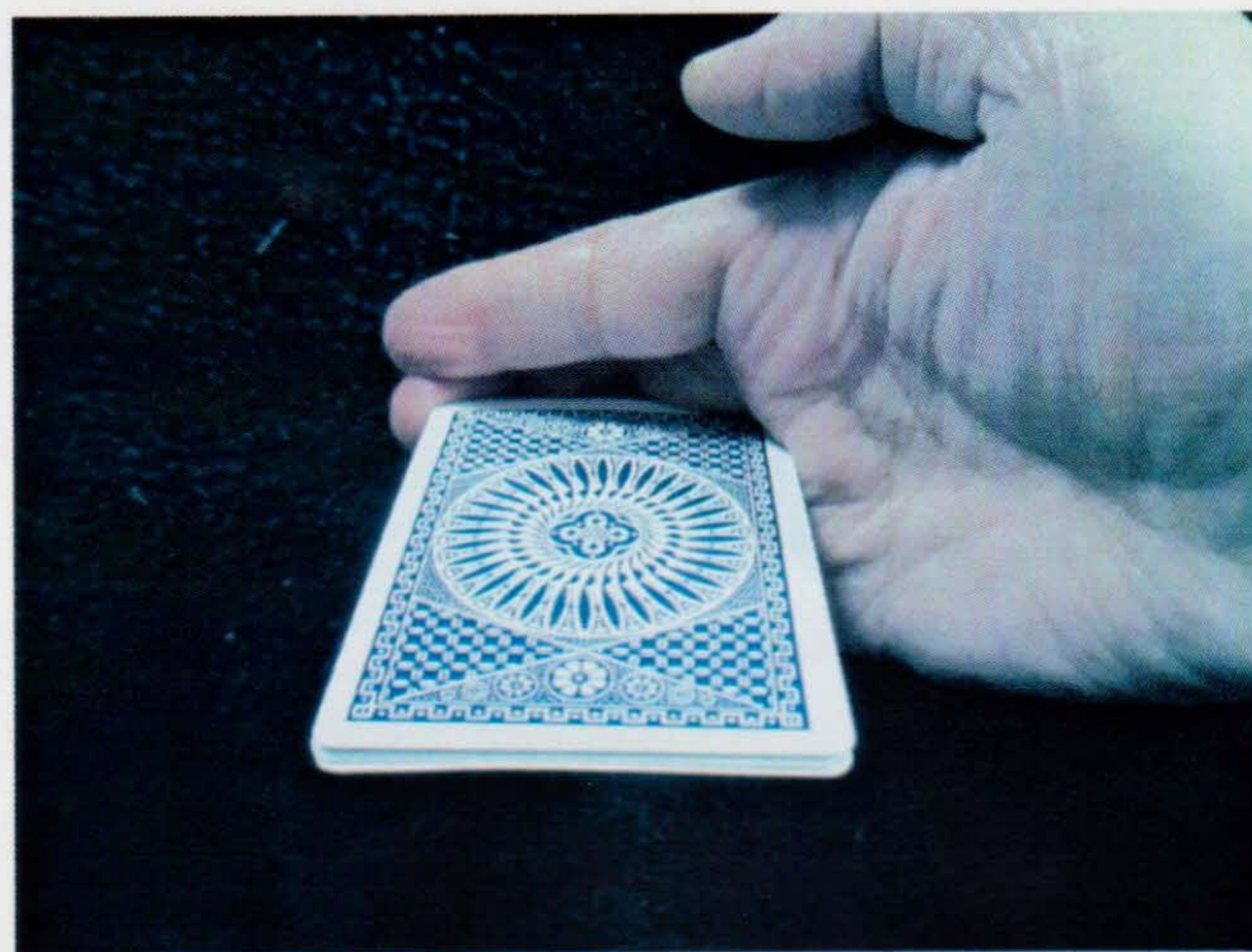


写真777

- ②このときのラテラル・パームの位置は、読者の中には薬指を使っている人がいらっしゃるかもしれませんが、以下の動きの中で薬指は下から支えるために使う必要がありますので、この際、中指を使う前提で解説します。最初に、中指と中指・薬指のつけ根の間にカードの上端を

挟んで保持します(写真777)。その他の指はまったく自由に動くことを確認してください。

- ③最終的に、カードの左上隅を中指の先で、右下隅を親指で保持して、この対角線を軸に人差指を使って、カードをクルクル回すことになりますから、そういう動きができるようにラテラル・パームの位置、特に中指の先端の位置を決めます。その結果、カードがやや曲がることになってもかまいません。ラテラル・パームしたら、親指を動かして、カードの右下隅に届くかどうか確認してください(写真778)。届かないようでしたらラテラル・パームの位置を調整します。

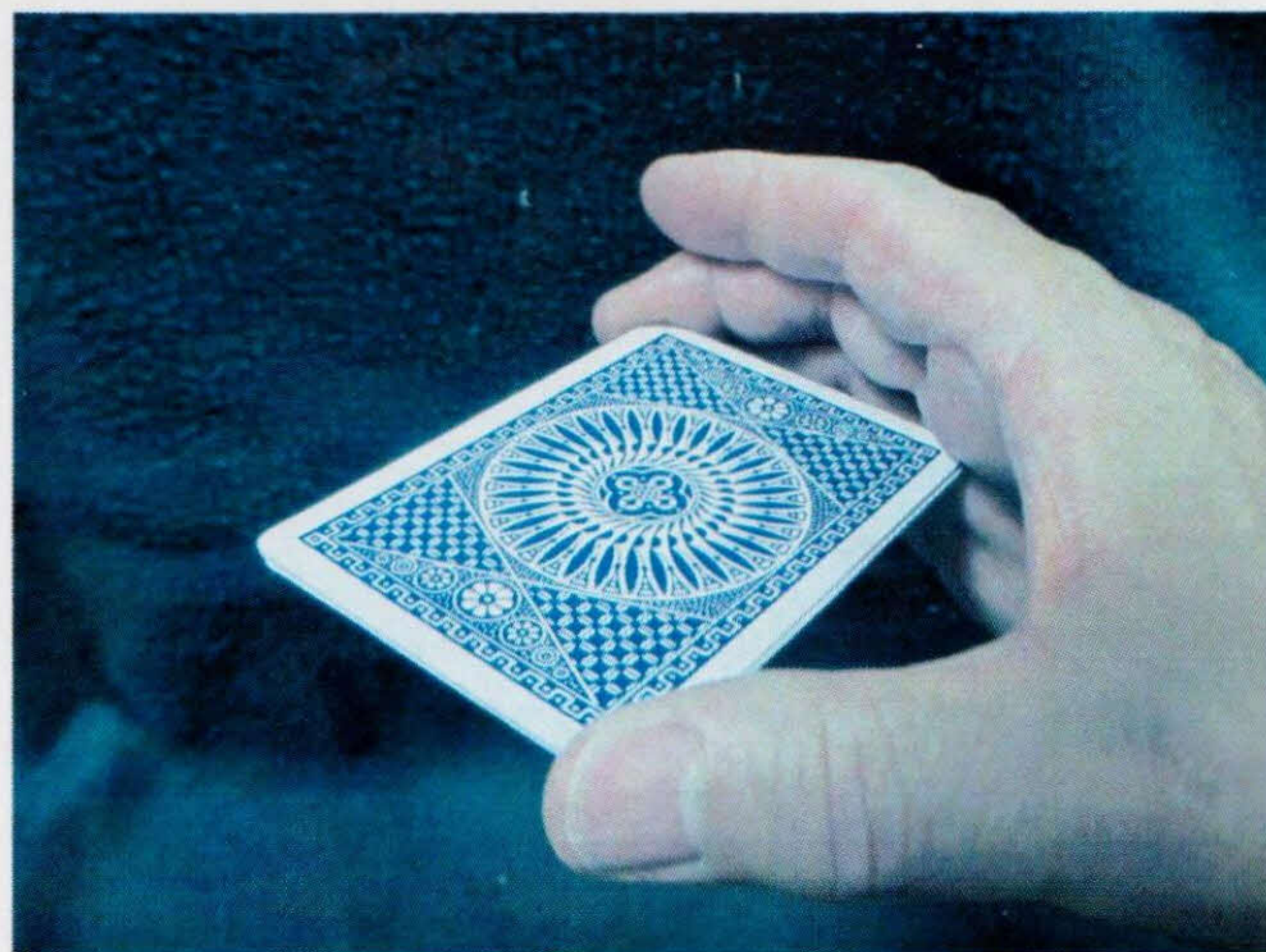


写真778

- ④ラテラル・パームの位置が決まったら、親指で右下隅を押さえて、カードを、中指の先端と親指の先端とで保持します。他の指はすべて放します(写真779)。

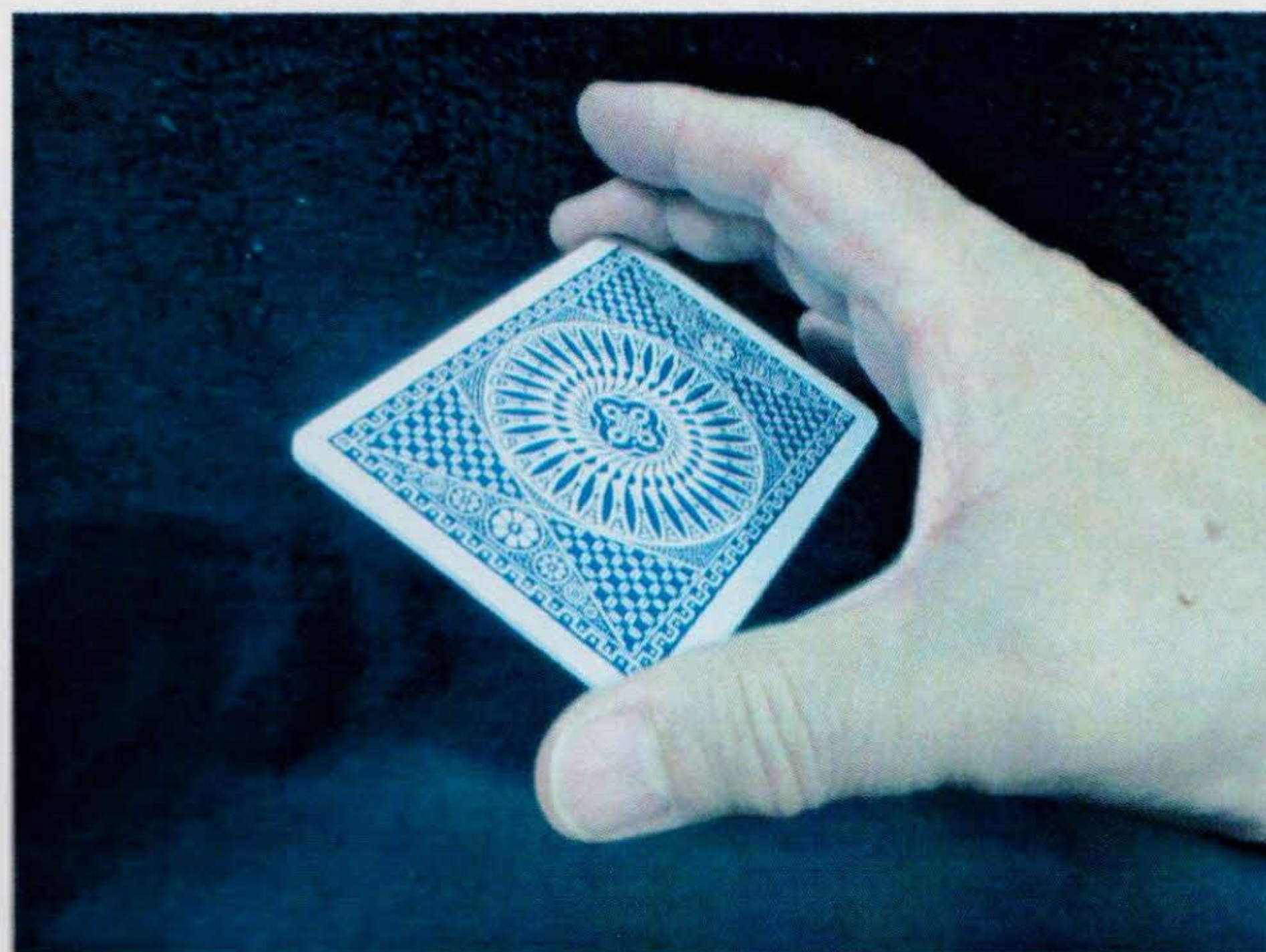


写真779

- ⑤この位置で、人差指で上から押して、中指・親指の対角線を軸にカードを時計周りに回転させます(写真780)。回転がスムーズに行かない場合は、下から薬指で上に押し上げて、人差指と薬指とを連動させて、カードがクルクルと回転するように練習します。これを観客から見ると、1枚のジョーカーが、マジシャンの指先でクルクル回転しているように見えます。実際のカードは5枚ですが、きちんと揃えて回転させていれば、カードが5枚あると気づかれることはありません。また、回転のスピードはあまり遅いとごちなく見えますので、一定のスピードで回転で

きるように練習します。



写真780

- ⑥次の動きが Chris Randall もちょっと難しいと言っている箇所です。カードが一回転したら、再びラテラル・パームの位置に戻します。戻したら、親指の先で一番上のカード(エース)の右下隅を持ち上げて、そのまま親指でカードを1枚だけ上に撥ね上げます。このとき、薬指を曲げてカード群を下から支えます。撥ね上げたカードは親指と人差指で保持することになります。観客からは、いま観たジョーカーが裏向きになっているとしか見えません(写真781)。

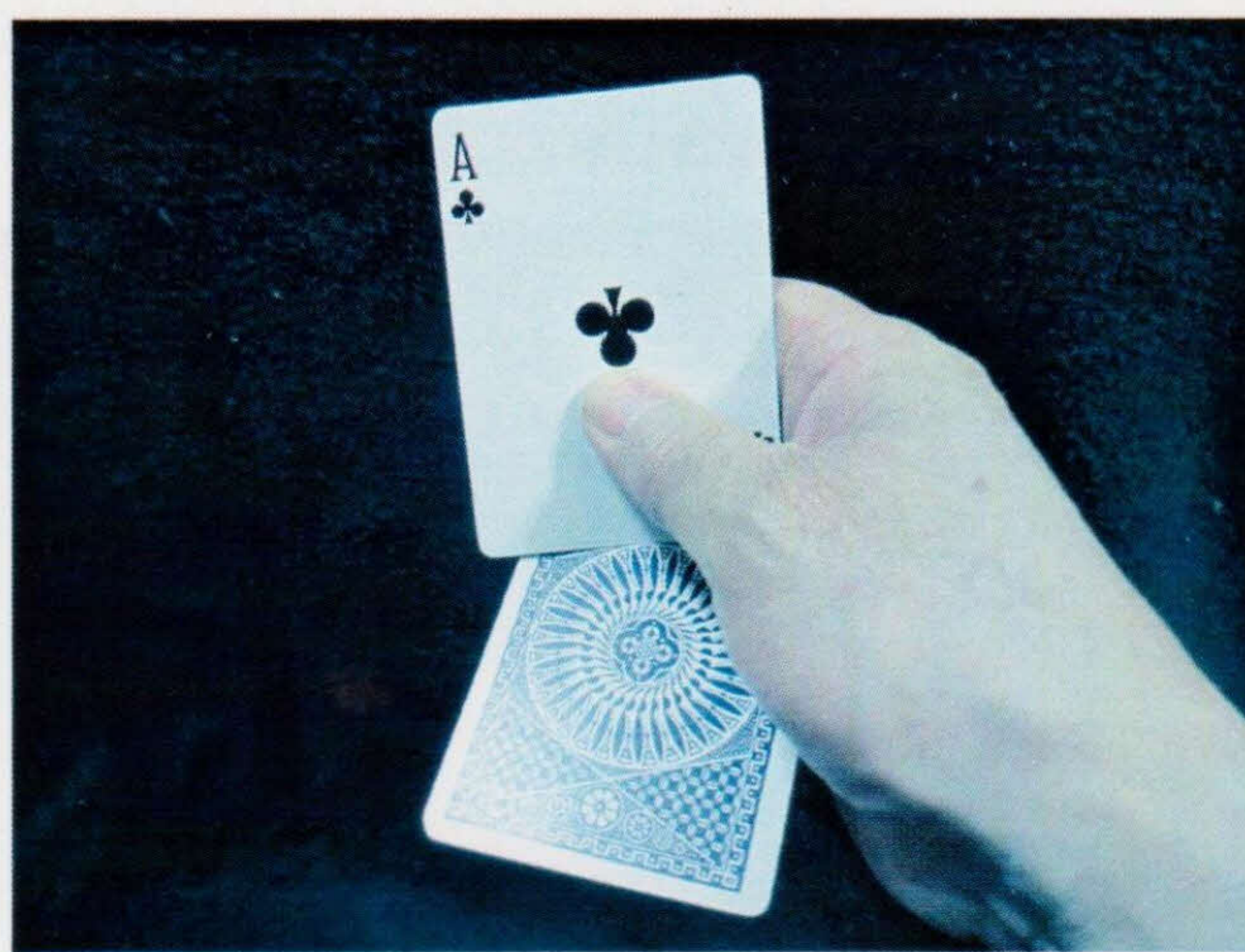


写真781

- ⑦このカード(エース)を裏向きのまま左手で取ります。右手にラテラル・パームして残っている4枚のカードをさきほどと同じように、中指と親指とで挟んで、人差指と薬指とを使って左上隅と右下隅の対角線でクルクル回転させます。観客からは、再び、ジョーカーが右手に出現したように見えます。
- ⑧クルクル回したら、再びラテラル・パームの位置に戻し、一番上のカード(エース)だけを親指で撥ね上げます。撥ね上げたカード(エース)は観客から裏向きのまま左手に取ります。左手に取った2枚のカード(エース)はややファンに開いておきます。
- ⑨観客は右手が空だと思っていますので、ここで、もう一度3枚のカードをクルクル回転させて、

ジョーカーを見せます。ラテラル・パームから、3枚目のカード(エース)を親指で上に撥ね上げます。このカード(エース)も裏向きのまま左手に取ります。取った3枚のカードは、ややファンに開いておきます(写真782)。



写真782

- ⑩最後のカードはちょっと難しいです。ジョーカーが右手の指先でエースに変化します。右手にラテラル・パームしている2枚のカードをクルクル回してジョーカーであることを見せるところまでは同じです。親指で上側のエースの右下隅を持ち上げて上に撥ね上げるのも同じです。次に、このカードを、人差指を使って時計周りに回転させ観客側に表が向くようにします(写真783)。

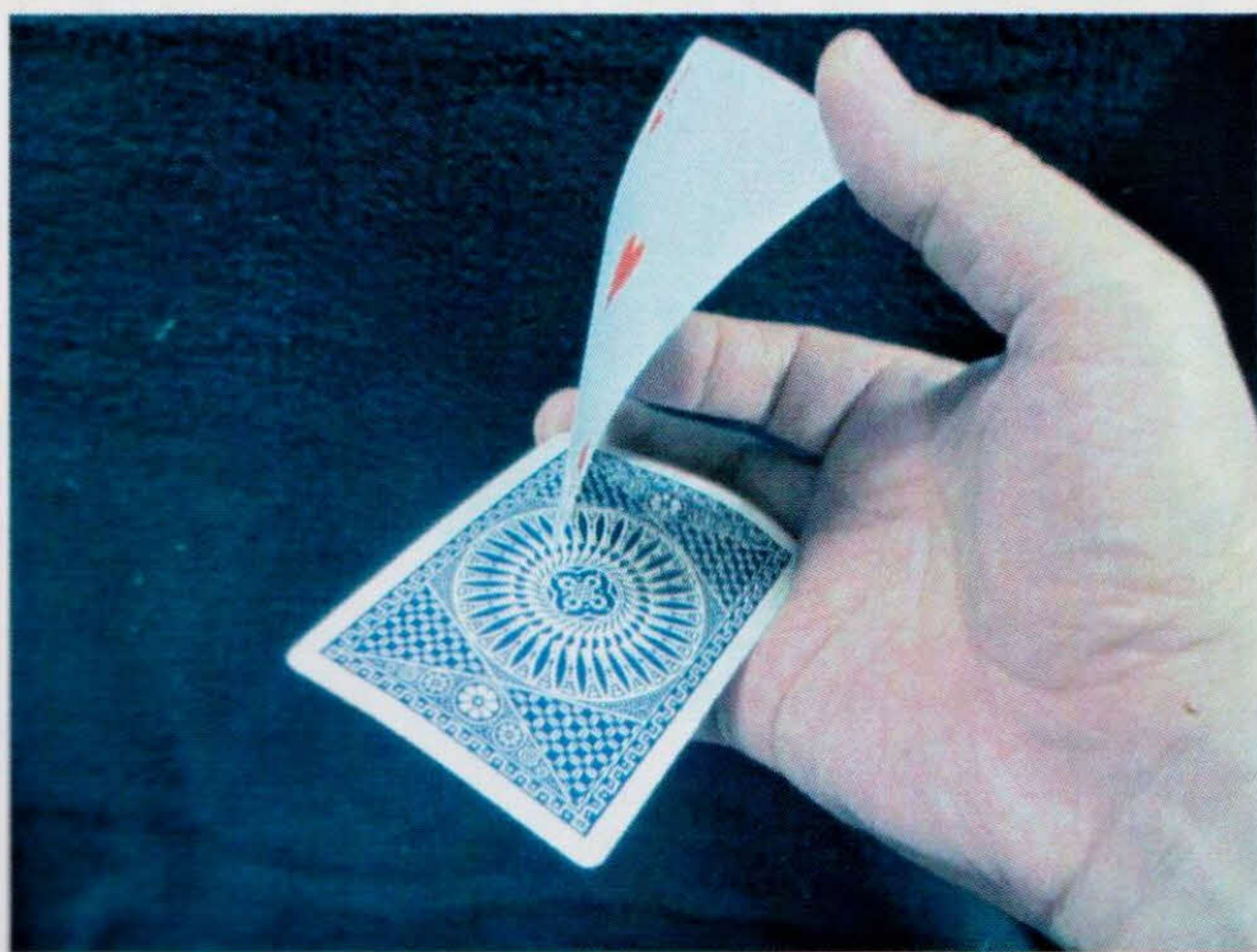


写真783

- ⑪回転してエースが完全に観客に認識されたら親指を放して、エースの右下隅を人差指と中指だけで挟みます(写真784)。人差指が裏側です。
- ⑫すぐに、親指を使って、親指と中指でエースを持ち替え、空いた人差指でエースの右側長短を押して回転させ、まだラテラル・パームしているジョーカーの下に入れて揃えます(写真785)。これで、あたかもジョーカーが完全にエースに変化したことになります。
- ⑬右手のエースを指先に持って見せながら、左手の3枚のファンを表向きにすると、3枚ともエースなので観客は驚きます(写真786)。

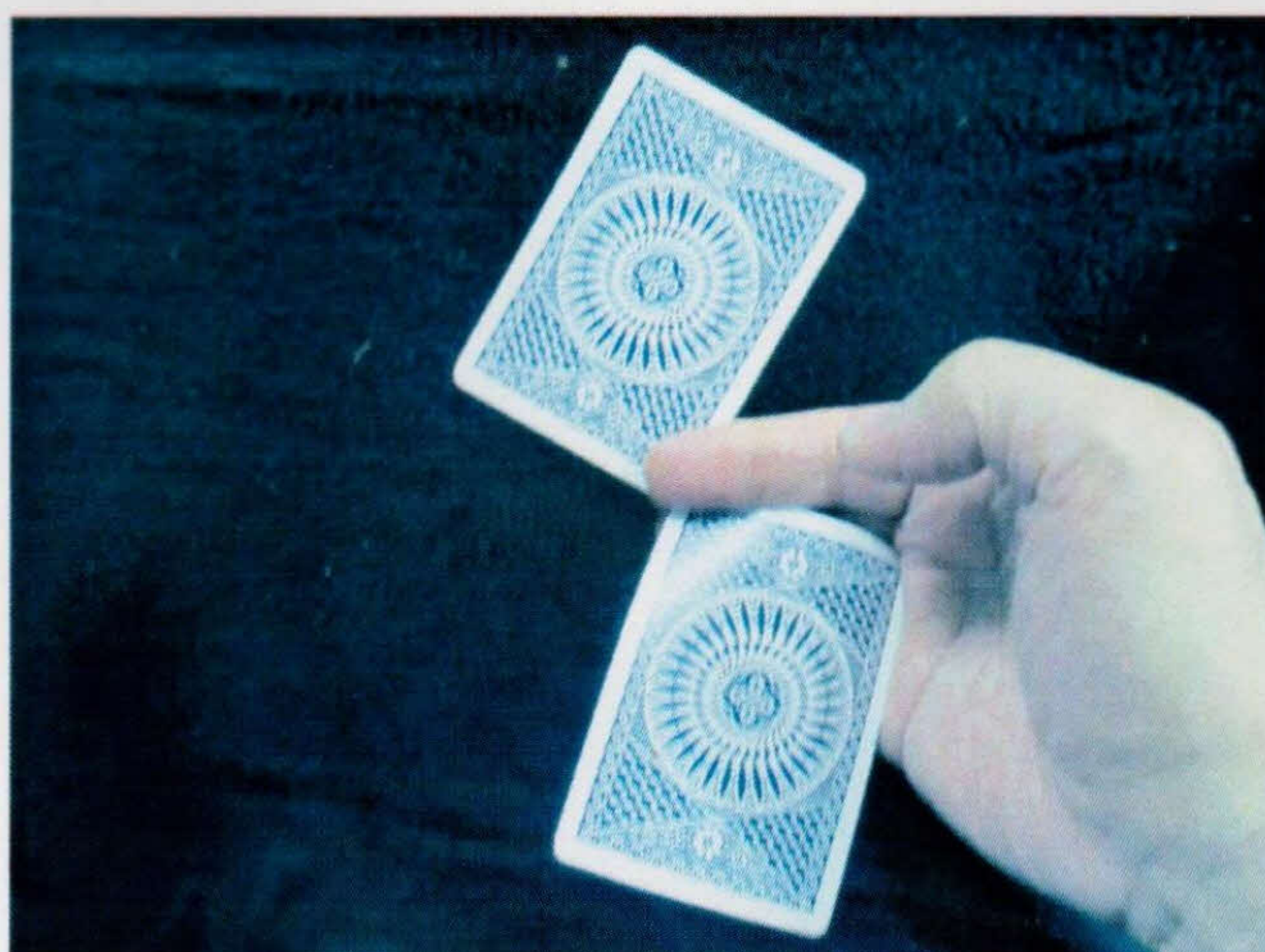


写真784

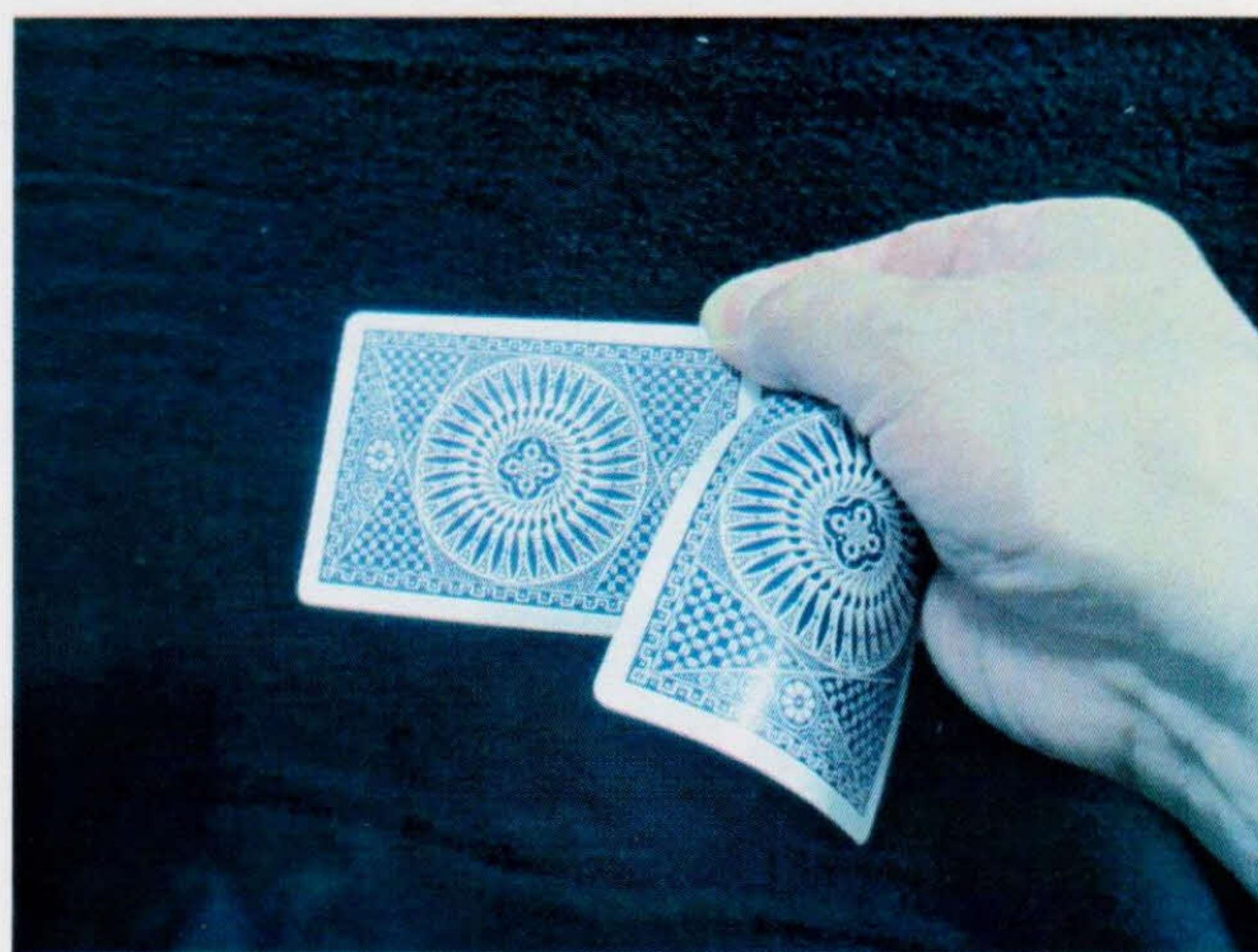


写真785



写真786

[コメント]

躍動的な動きのある作品を静止画で説明することは至難の技ですが、実際に練習してみると、むしろそれぞれに個性的な味が出ていいのではないかと思います、解説してみました。

ヒンバー・ワレットを使った小品

麦谷眞里

(まえがき)この手品は、Harry Lorayne の"THE HIMBER WALLET BOOK"(写真787)に収められている"BILL-FOOLED BET"を私がほんのちょっと変更したものです。ヒンバー・ワレットそのものはすでに奇術界ではポピュラーで、いまさらこんなものは使わないと思っている方はもちろん、すでに、この手品をご存じの方もぜひもう一度練習してみてください。

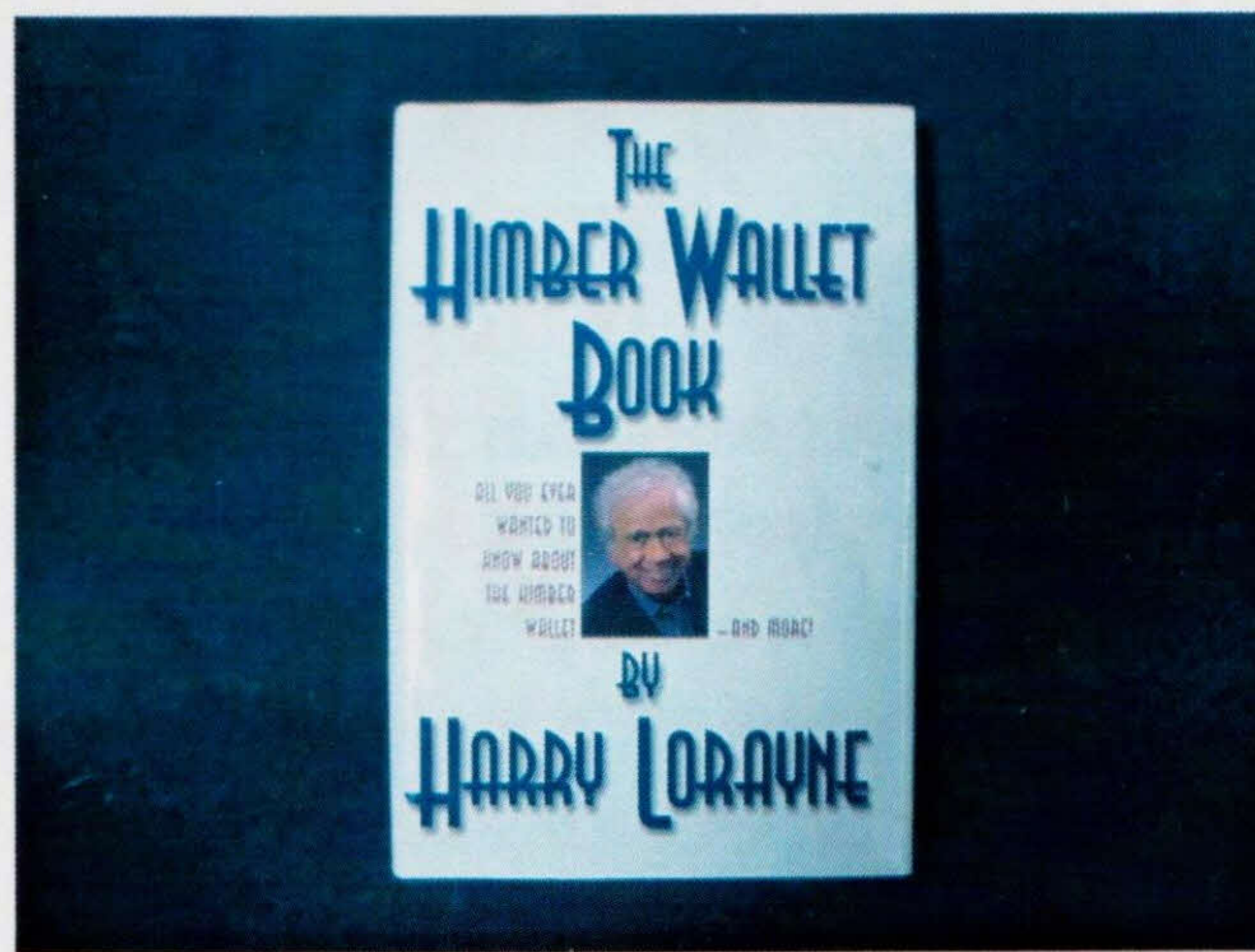


写真787

[現象]客が任意に選んだカードが予めマジシャンによって予言されています。

[必要なもの]

- ①ヒンバー・ワレット(普通のサイズの標準的なものでOKです)
- ②デュプリケートのハートの9 1枚
- ③デッキ(②のカードと同じ銘柄のもの) 1組
- ④正方形のポスト・イット 1冊
- ⑤ペン 1本
- ⑥1万円札 1枚
- ⑦1000円札 1枚(1000円札は観客から借りますが、客が持っていなかったときのために、念のために用意しておきます)

[準備]

- ①ポスト・イットに、用意したペンで、「あなたはハートの9を選び、そして1000円を失います」と手書きで書いて文字の部分を見えないように内側にして丁寧に四つ折りにします。1回目は下から上に谷折りで折り、2回目に折るとき、山折りに糊の面がくっつくように折ります。
- ②まず、ヒンバー・ワレットの片面左側の小さなポケットにデュプリケートのハートの9を裏向きで入れ、その「上」に四つ折りにした予言の紙をポケットから見えるように入れます(写真788)。

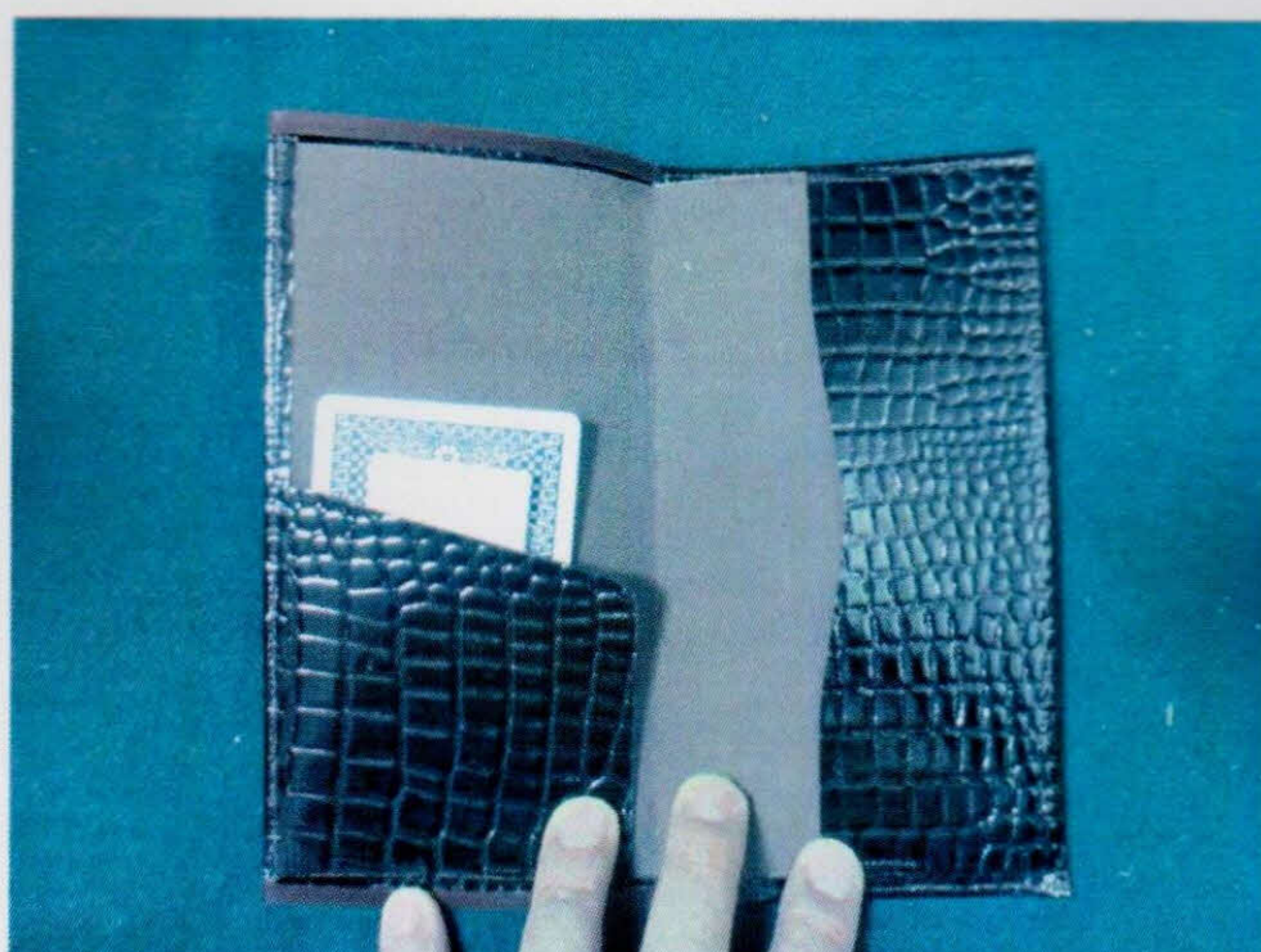


写真788

[やり方]

- ①ヒンバー・ワレットは閉じて上着の内ポケットに入れておきます。まず、一人の客に向かい、「これから、あなたに圧倒的に有利な賭けを行ないます。1000円札持っていますか？」客が1000円札を持っていたら、1枚テーブル上に出してもらいます。持っていなかったり、客が賭け事はイヤだとか言ったりしたらマジシャンの1000円札を出して、客の1000円札と仮定することになります。マジシャンは、1万円札を出してテーブルの上に置きます。
- ②「あなたが1000円、私が1万円賭けるのですから、これだけでもあなたに有利です」こう言いながら、デッキを取りだして客に渡し、自由にシャッフルさせます。シャッフルが終わったらデッキをテーブル上に裏向きでリボン・スプレッドします。
- ③「賭けはこうです。これから、あなたに、この52枚のトランプの中から、まったく自由に1枚だけを選んでもらいますが、私が、そのトランプをあらかじめ予想しておきます。当たる確率は52分の1です。私の予想が当たったら私の勝ち、当たらなかったらあなたの勝ちです。どうです？あなたにとって圧倒的に有利でしょう？」
- ④客の反応が何であっても、「それでは、予想を書きます」と言って、ポスト・イットにペンであらかじめ準備しておいた文言と同じ予言「あなたはハートの9を選び、そして1000円を失います」と書きます。書いたら同じように丁寧に四つ折りにしてテーブル上に置き、「お金と予想をしまうために私の財布を使います」と言いながら、ここで上着の内ポケットからヒンバー・ワレットを出して、空のほうを開いて、まず、テーブル上の四つ折りの紙をワレットの左側の小さいポケットにちょっとはみ出すくらいにして入れます。ワレットは開いたままテーブルの上に置きます。さらに、テーブル上の1万円札と1000円札を重ねて、1万円札が外側になるようにして二つ折りにして、山折りの部分が下方になるようにして、そのまま開いて置いてあるヒンバー・ワレットの右側の長いポケットに、横から少しはみ出すように入れます(写真789)。
- ⑤「もう私の予想は書いてあります」そう言って、ヒンバー・ワレットの左側のポケットに入っている四つ折りの紙を指差します。「今度はあなたがトランプを選ぶ番です。この中からお好きなトランプを1枚だけ、人差し指で上に押し出してください」とリボン・スプレッドを指差します。



写真789

- ⑥客が1枚押し出したら、「本当にそれでいいのですか？いまならまだ交換できますよ」と付け加えます。客が自分の選択に満足したら、そのカードを裏向きのまま、開いているヒンバー・ワレットの左側のポケットの予言の紙の「下」に入れます。そして何気なく一旦ヒンバー・ワレットを閉じます。
- ⑦ふと思い出したように、「すり替えられないように、トランプにも予想の紙にも、あなたのイニシャルを書いておきましょう」と言って、客にペンを渡しなが、ヒンバー・ワレットの準備したほうの側を開けます。外見は、カードも紙も紙幣もまったく同じように見えます。ヒンバー・ワレットはこのまま開いたままで、左側のポケットから予言の紙とカードを取り出して、紙とカードの裏に客のイニシャルを書いてもらいます。これはすでにすり替え終わったカードと紙ですから、まったく問題ありません。客がイニシャルを書いたら、元通りに、カードと予言の紙を左側のポケットに戻して、ヒンバー・ワレットを閉じます(写真790)。

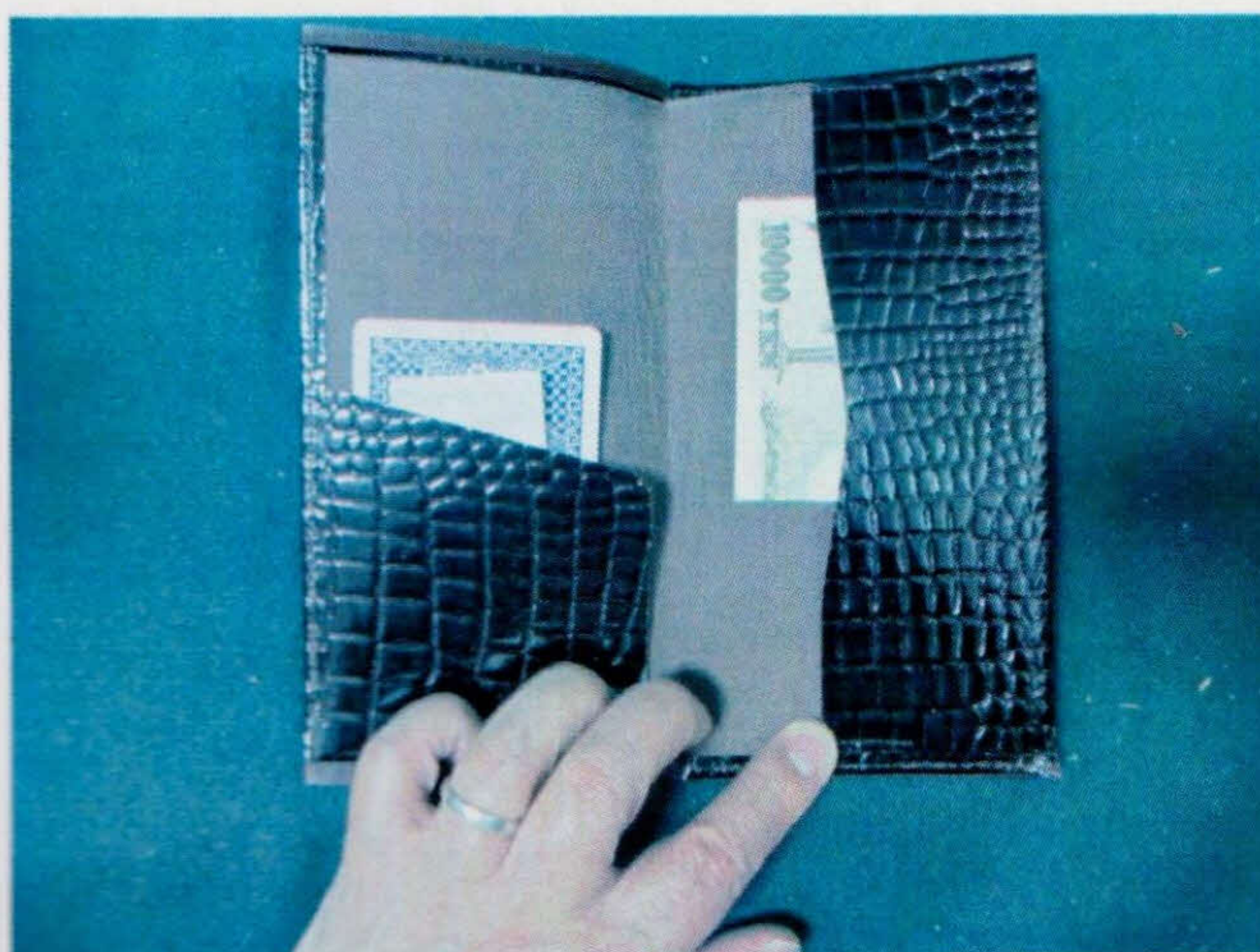


写真790

- ⑧ここで一呼吸おきます。「あなたは52枚のトランプの中から、たった1枚のトランプを選びました。選ばれてから当てるのでしたら、いろんなマジシャンがやっていますが、今日は、選ばれる前に予想を書きました。これが当たることはほとんど不可能です」と言いながらヒンバー・ワレ

ットの準備したほうを開けます。まず、カードと予言の紙を順に抜きだして、客のイニシャルを確認してもらいます。それからおもむろに、カードを表向きにしてハートの9を示し、次いで、客に予言の紙を渡して、開いて読んでもらいます。観客が複数いる場合は音読してもらいます。予言はみごとに当たっています(写真791)。



写真791

- ⑨ヒンバー・ワレットの右側のポケットに入っている紙幣を2枚とも抜きだして、「これは2枚とも私のものです」と言ってテーブルの上に置きます。ここで、ヒンバー・ワレットを閉じて、上着の内ポケットにしまいます。2枚の紙幣のうち、1000円札だけを手に取って、「これは、私の手品を手伝ってくれたあなたの出演料です」と言って客に返します。客の1000円でなかった場合は、この演出は不要です。

[コメント]

解説の中で、ヒンバー・ワレットそのものの説明や、扱い方などの基本的なことは説明しませんが、私自身は変にワレットを手に取り上げてターンノーバーなどの操作をせずに、テーブルに置いたままの状態、単純に右に開くか左に開くかで分けています。また、最初にリボン・スプレッドしたデッキから客がカードを選んだあと、マジシャンがそのカードを裏向きのままヒンバー・ワレットまで運びますが、この間に、インデックスをピークするなどの技法で客のカードが何であるかを見ることができたら話はちょっと異なります。仮に、そのカードが偶然にもハートの9であったら奇跡が起こりますから、ヒンバー・ワレットを使う必要はありません。適当な演出の元に、ただちに予言の紙を開いてハートの9であることを見せて終わることができます。

これは、aficionado の Vol.5-No.5 です。

郵便の送付先: 〒145-0061 東京都大田区石川町2-33-1-904 マスカレイド

E メール・アドレス: masqpart4@aol.com

これは、限定100部のうちの08/100です。

(2020年7月)

AFICIONADO VOL.5

DATE: 2020/7/4
TO: 定期購読者のみなさまへ
RE: NO.5 の送付

「アフিশオナード Vol.5」の No.5 をお届けします。

本誌の補足を書きます。

最初の「カンニバル・カード」の冒頭で、3枚のジャックをデッキの上に落として、ジャックを1枚だけ右手に取り上げる箇所があります(625ページの⑤)。このとき、デッキの上に落とした3枚のジャックのうち一番下のスペードのジャックがデッキのトップにセットしてあるダブル・バック・カードの両面テープにくっついてしまわないかと心配された方がいらっしゃると思います。そのことを書こうとしたのですが、ページのレイアウトの関係で書けませんでしたので、いまここで書いておきます。3枚のジャックは上から落としただけで、強く押さえませんから、仮にくっついたとしても、軽い状態ですので、最後のスペードのジャックを取り上げる時に指先でダブル・バックを押さえて剥すように取り上げれば大丈夫です。そのことの注意は本文にも書いてあります。心配な方は、スペードのジャックだけを、ほんのちょっとブリッジをかけて真ん中部分を浮かせておいてもいいです。しかし、ほとんど、その必要はありません。

写真とのレイアウトの関係で、本文に書けなかったことをこのフライに書きました。多くの方は、雑誌が届くとこのフライを処分されると思われますので、後年、雑誌だけを手にされた方は、この部分の解説の不十分さに疑問を抱かれるでしょう。分離した2つの記述(雑誌本体とフライ)で初めて解説が完成するのはまるで手品のようなものです。

それでは今後ともよろしくお願い申し上げます。

マスカレイド

e-mail:masqpart4@aol.com